



鹿児島県言語聴覚士会ニュース

今号目次

巻頭言

1ページ

学会参加記

2-3ページ

新人紹介

4-5ページ

事務局通信

6-10ページ

学術局(成人)

11ページ

学術局(小児)

12ページ

学術局(生涯学習)

13ページ

学術局(新人教育)

14ページ

地域局

(大隅地区担当)

15ページ

社会局

(地域リハ・広域)

16ページ

社会局

(地域リハ・市内)

17ページ

社会局

(公共事業・保険)

18ページ

社会局(広報局)

19ページ

財務局

20ページ

編集男誌

巻頭言

一般社団法人 鹿児島県言語聴覚士会
学術局 聴覚部会部員 戌亥啓一

令和七年度、鹿児島県言語聴覚士会聴覚部会は、鹿児島県の聴覚分野における言語聴覚士の活躍を支える基盤づくりを目指し一歩ずつ活動を進めた一年でした。地域向けの取り組み、医療・教育・福祉との連携、難聴児・難聴者への支援の質向上につながる研修の充実など、さまざまな活動を重ねてきました。どの取り組みも、部会員一人ひとりの熱意と努力が形となったものです。特に、今年度新たに加わった部会員皆さんの積極的な参加は、部会の活動に新しい風を吹き込み、これまで以上に幅広い課題に向き合う力を与えてくれました。

地域での活動としては、認知症フェスタにおいて「難聴」をテーマに部会員が講演を行いました。聴覚障害と認知症の関係や、日頃の関わり方について言語聴覚士からお伝えできたことは、地域の皆さまに難聴への理解と言語聴覚士のかかわりを認識していただく貴重な機会となりました。

また、今年度スタートした鹿児島県聴覚障害児支援事業においては、鹿児島聾学校をはじめ、事業に携わる言語聴覚士・事業所との新たなつながりが生まれました。現場で求められる支援内容の共有や情報交換、多機関連携の強化など、聴覚障害児とご家族を支えるための基盤づくりにつながる取り組みにかかわることができました。

研修活動では、二度の講習会・研修会を開催し、専門性向上の機会を持つことができました。第一回は「言語聴覚士が知っておく難聴者を取り巻く環境と対応」と題し、九州リオン株式会社の竹松知紀先生、南條百合香先生、伊東由佳理先生から、最新の聴覚支援機器や支援の現状について学ぶことができました。第二回では「補聴器診療を身近に！いまさら聞けないアレやコレをアップデート～基礎的なことや明日から使える臨床応用まで～」として、済生会宇都宮病院の鈴木大介先生にご講演いただき、明日からの臨床に結びつく知識と気づきを多く得られました。

このように令和七年度は、人のつながりと広がり、地域への発信、新規事業との協働、そして研修の充実と、多方面で実りある一年となりました。そして迎える令和八年度、聴覚部会は新たな部会長のもと、さらに活動を深めていく節目を迎えます。

県士会の皆さまとともに進むこれからの一年が、実り豊かであたたかいものとなるよう、引き続き励んでまいりたいと思います。

第14回日本言語聴覚士協会 九州学術集会 宮崎大会参加記 ～初めての学会参加された先生方の記録～

上山 彩花（2年目）

今回初めて学術集会に参加して、同世代のSTが発表している姿に刺激を受けました。参加する前は、学術集会に対してベテランのSTや先輩方が参加しているイメージがあり、参加すること自体に少し緊張感がありました。しかし、実際に参加してみると同世代のSTも参加しており、わたしの抱いていたようなハードルの高い印象ではなく、リラックスして臨むことができました。

研究報告の中でも、初めて耳にする機器の名前や嚥下訓練法などが多くあり、改めて疑問点を持ち自己研鑽に努めようと思いました。そして、学生時代にお世話になった先生方や同級生に再開することができて喜びを感じた反面、このような場で発表や質問をお互いにできるよう切磋琢磨していきたいと感じました。





笹原 奈々美 (2年目)

今回が初めての学会参加で緊張しましたが、同じ職場の先輩や同僚と一緒に参加することができて、とても良い経験になりました。自分の日々の臨床内容を見つめなおすきっかけとなり、STとしてもっとレベルアップできるようにこれからも自己研鑽に努めたいと思いました。

学会への参加は知識を深めるだけではなく、働く上でのモチベーションにも繋がると感じました。会場では、専門学校の先生方ともお話しする機会があり、久しぶりの再会ができ嬉しかったです。

学会終了後は宮崎名物のうどんをみんなで食べに行き、ご当地グルメを楽しめたのも良い思い出となりました。

川田 美歌 (3年目)

今回、初めて学会に参加し、各発表テーマはいずれも興味深く、自身の臨床に活かしたいと感じる学びが多くありました。また、学生時代にお世話になった先生方と再会する機会にも恵まれ、大変有意義な時間となりました。今後、再び学会に参加する際には、臆することなく質問や意見交換ができるよう、日々の研鑽を積み、成長した姿をお見せしたいと感じました。

中川先生の講話では、失語症患者に対する生活期を見据えた支援の重要性を学び、現在担当している若年の患者様のリハビリを具体的にイメージしながら理解を深めることができ、臨床につなげていきたいと考えました。

新人紹介

医療法人玉昌会 加治木温泉病院

総合リハビリテーションセンター 池上麻理

私は令和7年3月に鹿児島第一医療リハビリ専門学校を卒業し、現在、始良市加治木町にある医療法人玉昌会 加治木温泉病院に勤務しております。当院では、回復期リハビリテーション病棟をはじめ、地域包括ケア病棟、医療療養病棟、地域一般病棟、介護医療院、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション、小児リハビリテーションなど、幅広い分野においてリハビリテーション医療を提供しております。

グループ全体の基本理念である「いつまでも健やかに・・・私たちの願いです。」のもと、所属する総合リハビリテーションセンターでは、「私たちは、住み慣れた地域でその人らしい生活を送ることができるよう、人間性・専門性を磨き、その人を取り巻くすべての人が手を携え、活力あるリハビリテーションを行うことを通して地域に貢献します」という理念を掲げ、日々の業務に取り組んでおります。

私は回復期リハビリテーションに携わらせていただき、入社して間もなく一年を迎えようとしています。入社当初は、新しいことの連続に不安を抱え、職場環境に慣れることや日々の業務をこなすことで精一杯でした。しかし、優しく温かい先輩方のご指導と支えのおかげで、徐々に環境にも業務にも慣れることができました。

一方で、現在は入社当初とは異なる悩みや不安を抱くようにもなりました。担当させていただく患者様が増える中で、入院中の患者様に対しては「この訓練プログラムは本当に最善であったのか」、また退院された患者様に対しては「もっとできる支援があったのではないかと」自問する日々です。悩みや葛藤が尽きることはないと感じる一方で、そうした思いこそが、自分自身の成長に必要な過程であるとも考えています。悩みや不安に直面した際にも思考を止めることなく、患者様一人ひとりに真摯に向き合い、退院後のより良い生活へとつなげられるよう、今後も自己研鑽を怠らず、日々精進してまいります。

また、総合リハビリテーションセンターの理念に基づき、専門性の向上に加えて、人間性を磨く努力も大切にしながら成長していきたいと考えています。患者様の気持ちに丁寧に寄り添い、安心してリハビリテーションに取り組んでいただけるような関わりを心がけ、信頼されるセラピストを目指して、今後も努力していきたいと思っております。

最後になりますが、言語聴覚士を志してから現在に至るまでの過程、そして言語聴覚士として働く中で、出会い、支えてくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。

新人紹介

医療法人みらい

みらいリハビリテーション病院

新原苑華

私は令和7年3月に鹿児島医療技術専門学校を卒業し、鹿児島市下荒田町にある医療法人みらい みらいリハビリテーション病院に勤務しております。「生命の尊さを知り、隣人を愛する心を基本に利用者と地域を癒し、なおかつ自分自身が成長できる組織を目指します。」という当院の理念のもとに、日々学びを深めながら、患者様に寄り添った支援ができるよう努めております。

入職した当初は、業務を覚えることやリハビリの考案に必死で、現在の視点から考えると多くのことを見落としていたように思います。たとえ同一の疾患名であっても、患者様の病態は一様ではなく、その方に「合う」リハビリも本当に多種多様であると実感しております。たとえ座学上では「効果的」とされているような治療であっても、患者様の状態によっては負荷が高過ぎていたり、逆に意欲的な患者様にとっては物足りないものになってしまったりなど、対象となる患者様の身体・精神面を包括的に正しく把握できなければ、適切なリハビリを提供できているとは言い難いと感じます。学生の頃、現在の日本言語聴覚士協会の会長である内山量史先生に「勉強は働いてからの方が大切だ」と助言をいただき、その際には分かったような、分からないような曖昧な気持ちでございましたが、臨床業務に励む現在はその言葉の意味を強く痛感しております。自身の考察が本当に正しいものであるのか、提供しているリハビリ内容に齟齬が生じていないか、自問自答を怠らないように心がけています。

これから目指す言語聴覚士像として「リハビリを受けて良かったと思えるような言語聴覚士になること」を考えております。患者様が退院する際にこれからの生活に希望を見出し、充足感を得られるようなリハビリを提供していきたいと思えます。

これからも臨床現場で働き続けるにあたり、自己研鑽はもちろんですが、働く自身の心身を健康に保つことも、同じくらい大切であるように思います。土台となる体調が整っていなければ、臨床・勉強に励むことも困難となるためです。当院は職員への昼食の提供（無料）があるため、バランスのとれた食事を定期的に摂取できることは、自身への健康に大きく役立っているように感じます。これからも地域の皆様へ質の高い医療を提供すべく、多様な面で人として成長できるよう、努めていきたいです。

当院HP：<https://e-mirai.or.jp/mirai-reha/>

リハスタッフ採用サイト：https://e-mirai.or.jp/mirai-reha/reha_recruit/

事務局通信

9月

- ・ 会員動向について協議され承認された。
- ・ 十島村保健事業への貴会会員の派遣に関して協議され継続審議となった。
- ・ 始良地区歯科医師会学会講師派遣について協議され、原口氏・有川氏を推薦することとした。
- ・ 聴覚部会部員加入について承認された。
- ・ 聴覚部会研修会における参加費について承認された。
- ・ 発達部会主催小児研修会について承認された。
- ・ 研修会等申し込み誤り（振込金額誤り）について、自身の誤りの場合は返金しないこととした。
- ・ 基礎講座講師登録を行った。
- ・ LINE登録管理について整理することとした。
- ・ 研修会実施報告書を作成することとした。
- ・ 全国協会代議員選挙について継続審議とした。
- ・ 令和7年度介護実習・普及センター依頼講師派遣報告があった。
- ・ 鹿児島市お達者クラブについて報告があった。
- ・ PTOTST推進リーダー研修関連について報告があった。
- ・ ホームページ掲載（広報）について報告があった。
- ・ 県土会ニューズペーパー進捗について報告があった。
- ・ 言語聴覚士の日イベントについて報告があった。
- ・ 新人教育研修会進捗状況について報告があった。
- ・ 臨床実習指導者講習会開催報告があった。
- ・ 第42回鹿児島市民健康まつり協力者について報告があった。
- ・ 令和7年度鹿児島市口腔保健連絡協議会について報告があった。
- ・ 鹿児島圏域リハビリテーション広域支援センター地域連絡協議会について報告があった。
- ・ 北薩地区交流会開催予定について報告があった。
- ・ 大隅地区症例研究会報告があった。
- ・ 災害対策関連の報告があった。
- ・ 訪問リハ実務者研修会について報告があった。
- ・ 会長動向報告があった。

10月

- ・ 会員動向について協議され承認された。
- ・ 十島村保健事業への貴会会員の派遣に関する件について担当者を決定した。
- ・ 鹿児島県難聴・言語障害教育研究会講師派遣申請に関する件について協議され原氏を推薦した。
- ・ 令和7年度鹿児島圏域地域リハビリテーション研修会後援依頼に関する件について協議され承認された。
- ・ 聴覚部会研修会計画について承認された。
- ・ 令和8年度学術講習会講師について協議され継続審議とした。
- ・ 北薩地区症例研究会について承認された。
- ・ 南薩地区症例研究会について承認された。
- ・ 全国協会代議員選挙について承認された。

- 鹿児島市お達者クラブについて報告があった。
- PTOTST推進リーダー研修関連について報告があった。
- ホームページ掲載（広報）について報告があった。
- 県士会ニューズペーパー進捗について報告があった。
- 小児研修会進捗について報告があった。
- 第26回新人教育研修会 開催報告があった。
- 士会マイページの基礎講座講師の登録について報告があった。
- 12月臨床実習指導者講習会について報告があった。
- 9月臨床実習指導者講習会修了書発送について報告があった。
- 2025年度下期生涯学習基礎講座について報告があった。
- 市民健康まつりについて報告があった。
- 北薩地区交流会開催報告があった。
- 監査について報告があった。
- 訪問リハ地域リハ会議および実務者研修会報告があった。
- 会長動向報告があった。

11月

- 会員動向について協議され承認された。
- 新生児聴覚スクリーニング等環境整備協議会研修会における会員の案内について承認された。
- 医療的ケア児の歯科保健医療の支援体制について協議され継続審議となった。
- 十島村保健事業への派遣に関する件について再協議され、十島村と相談のうえ派遣スケジュールを決定することとした。
- 三役が県士会の代表として他団体等との懇親目的での会食に参加した際は、接待交際費より捻出できない協議し承認された。なお、事前に理事化にて参加する旨報告かつ参加割いた場合は理事会に報告することとした。
- 協会士会一体化に関してのこれからの活動計画について継続審議となった。
- 障害福祉担当者連絡協議会への出席者を、竹中会長、黒木副会長、松永理事とした。
- 令和7年度 介護実習・普及センター依頼 講師派遣報告があった。
- 地域リハビリテーション活動人材育成事業 初期研修報告があった。
- 鹿児島市お達者クラブについて報告があった。
- PTOTST連絡協議会研修関連について報告があった。
- ホームページ掲載（広報）について報告があった。
- 聴覚部会研修会について報告があった。
- 発達部会研修会進捗状況報告があった。
- 県新生児聴覚スクリーニング等環境整備協議会について報告があった。
- 第27回新人教育研修会について報告があった。
- 臨床実習指導者講習会について報告があった。
- 2025年度下期生涯学習基礎講座について報告があった。
- 鹿児島地区症例検討会（web） について報告があった。
- LINE登録者について報告があった。
- 北薩地区症例検討会について報告があった。
- 南薩地区症例検討会について報告があった。
- 会費未納の会員について報告があった。

- ・介護職基礎研修Dについて報告があった。
- ・鹿児島訪問リハ研修会開催について報告があった。
- ・会長動向報告があった。

12月

- ・会員動向について協議され承認された。
- ・令和10年度カクイックス交流センター各ホール貸出し中止に伴う総会・講習会会場および開催日案に関する件について協議され、令和10年度は大研修室にて開催することとした。
- ・令和7年度鹿児島県介護実習・普及センター運営協議会対応者に関する件について協議され、末吉理事が対応することとした。
- ・九州地区学術集会宮崎大会後援について協議され承認された。
- ・地域リハ人材育成事業初期研修就労証発行について協議され承認された。
- ・お達者クラブ年間対応件数について協議され、対応件数を増やすこととした。
- ・認知リハビリテーション研究会国際ミニシンポジウム案内について協議された。当シンポジウムは研究会会員のみが参加可能であるため、県土会LINEへは配信しないこととした。
- ・令和7年度 聴覚障害児支援に係る連絡会参加者について春成氏とした。
- ・STの在宅支援対応可能事業所の把握をするために、アンケートを実施することとした。
- ・お達者クラブ関連の報告があった。
- ・POS連絡協議会主催ステップアップ研修関連の報告があった。
- ・ホームページ掲載（広報）について報告があった。
- ・2025年度 第1・2回 聴覚部会研修会について報告があった。
- ・2026年度 高次脳機能部会研修会の講師案について報告があった。
- ・小児研修会報告があった。
- ・令和7年度学術講習会講師について報告があった。
- ・発達部会主催研修会について報告があった。
- ・第27回新人教育研修会進捗報告があった。
- ・臨床実習指導者講習会について報告があった。
- ・2025年度下期生涯学習基礎講座について報告があった。
- ・鹿児島地区症例検討会について報告があった。
- ・第42回市民健康まつり反省会について報告があった。
- ・北薩地区症例検討会の詳細決定した旨報告があった。
- ・南薩地区症例検討会について報告があった。
- ・大隅地区症例検討会及び懇親会について報告があった。
- ・未納会員について報告があった。
- ・鹿児島市の桜島爆発対策訓練に関して報告があった。
- ・会長動向報告があった。

1月

- ・会員動向について協議され承認された。
- ・第15回口腔機能管理推進協議会出欠に関する件について協議され、竹中会長が出席することとした。
- ・鹿児島高次脳機能研究会後援に関する件について協議され、承認された。

- ・小児研研修会懇親会参加者について協議され、大島氏、末吉氏が参加することとした。
- ・学術講習会の講師の送迎について協議され継続審議となった。
- ・大学院生の協力が部員にあり、県士会LINEに依頼するか協議され、個人への協力であったため県士会LINEには配信しないこととした。
- ・2026年度臨床実習指導者講習会予算について協議され継続審議となった。
- ・2026年度臨床実習指導者講習会講師世話人募集について協議され継続審議となった。
- ・2026年度の協会活動支援金について学術講習会を対象とし、申請することとした。
- ・他団体主催臨床実習指導者講習会の不適切な開催に対する協会の対応について報告された。
- ・令和7年度鹿児島県介護実習・普及センター運営協議会について報告があった。
- ・人材育成事業初期研修の修了証作成について報告があった。
- ・十島村離島派遣についてについて報告があった。
- ・POS連絡協議会主催ステップアップ研修について報告があった。
- ・地域リハに関わる保健師との意見交換会について報告があった。
- ・専門職アドバイザー派遣事業に関して報告があった。
- ・ホームページ掲載（広報）について報告があった。
- ・ニューズペーパーについて作成について報告があった。
- ・発達部会研修会進捗状況について報告があった。
- ・学術講習会進捗状況について報告があった。
- ・協会主催令和7年度障害福祉担当者連絡協議会参加報告があった。
- ・第27回新人教育研修会 進捗報告について報告があった。
- ・2025年度下期生涯学習基礎講座について報告があった。
- ・2026年度臨床実習指導者講習会について報告があった。
- ・鹿児島地区症例検討会について報告があった。
- ・第42回市民健康まつり反省会について報告があった。
- ・令和7年度鹿児島市口腔保健連絡協議会について参加報告があった。
- ・北薩地区症例検討会について報告があった。
- ・南薩地区症例検討会について報告があった。
- ・大隅地区症例検討会および交流会ならびに協力員について報告があった。
- ・2年未納会員に文書発送した旨報告があった。
- ・桜島爆発防災訓練の参加について報告があった。
- ・会長動向報告があった。

2月

- ・会員動向について協議され承認された。
- ・地域子育て支援センターいっぺこっぺ「講演会ことばの発達と関わり方について」講師派遣に関する件について協議され継続審議となった。
- ・令和8年度鹿児島県介護実習・普及センター介護講座・研修に関わる講師派遣に関する件について協議され承認された。
- ・令和8年（2026年）度定時社員総会に関する件について協議され承認された。
- ・学術集会スケジュールについて午後より実施する旨承認された。
- ・2026年度臨床実習指導者講習会における県士会組織図を作成することとした。
- ・臨床実習指導者講習会に関わる予算等については特別会計（別枠）とすることとした。

- 2026年度臨床実習指導者講習会は学校養成所と協議のうえ、学校養成所と県士会と合同で実施していく計画とした。
- 2026年度臨床実習指導者講習会県士会世話人は竹中会長および石原氏とした。不足分は今後検討することとした。
- 所在不明会員（2年未納会員）を退会とした。
- 講師謝金、会議費、事業参加協力費について3月理事会にて協議することとした。
- 平島派遣について報告があった。
- R7年度ステップアップ研修について
- 介護予防事業保健師との意見交換会について
- ホームページ掲載（広報）について報告があった。
- ニュースペーパーについて作成について報告があった。
- 協会主催連絡協議会（障害福祉）参加報告があった。
- 小児研修会報告があった。
- 新生児聴覚スクリーニング連絡協議会参加報告があった。
- 第27回新人教育研修会 進捗報告があった。
- 2025年度下期生涯学習基礎講座について報告があった。
- 鹿児島地区症例検討会について報告があった。
- 北薩地区症例検討会について報告があった。
- 南薩地区症例検討会、協力員について報告があった。
- 始良霧島地区症例検討会について報告があった。
- 大隅地区協力員について報告があった。
- 学校養成所との臨床実習指導者講習会関連会議参加報告があった。
- 会長動向報告があった。

2026年2月理事会承認分まで



学術局 (成人)

皆さんは、普段の臨床で疑問点が出ると、どのように解決しているのでしょうか？身近な同僚や先輩に聞く場合は多いと思いますが、その際もまずは自分で調べていると思います。私自身、学生時代の参考書を引っ張り出すことはありますが、圧倒的にインターネットで論文検索することが多く、Pub MedやGoogle Scholar等を中心に利用しています。最近では、生成AIで論文検索する方も多いのではないのでしょうか。

生成AIを利用する場合、ハルシネーション（生成AIが事実とは異なる情報を提供すること）は避けられません。「論文検索」と「ハルシネーション」の関係について、少し調べてみると、Linardon J (2025) は、うつ病や過食症等の精神保健研究に関する文献レビューの生成をChat GPT (GPT-4o) にて行いました。176件の引用が生成されたうち99件、**およそ3分の2が捏造や不正確な情報だった**と報告しています。Fan D (2026) は、Chat GPTやGemini、DeepSeekなど種々の生成AIにおけるハルシネーション率を比較し、**最先端のフラッグシップモデルにおいても約30%は誤情報を生成**することを明らかにしました。また、**生成AIとの会話ターンが進むほどハルシネーションが増えること、専門領域の内容ほどやはりハルシネーションが増える**ことを明らかにしました。

生成AIで論文検索した結果を鵜呑みにすることは危険であり、対策としてはConsensusといった論文検索に特化した生成AIを利用する等が挙げられますが、いずれにしても引用元である一次情報（論文）を確認することが重要と考えます。慌ただしい日々の中でも生成AIをうまく活用できると効率良く情報収集ができるかもしれません。

鹿児島大学病院 医療技術部
リハビリテーション部門 川路 勇太
【Mail】 k6717465@kadai.jp



学術局 (小児)

小児学術担当の松永です。

2月28日、3月1日に宮崎市で行われた、「第14回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会」に参加しました。「1年前は鹿児島大会だったなあー、もう1年経つのかー」と懐かしさと時の流れの早さを感じた学会となりました。小児関係の発表も多く、鹿児島からも口述やポスター、シンポジウムなど多くの発表者と参加者が集まり、宮崎でも鹿児島の方言が色々な場所で聞かれました。最近ではST学会関連以外でも、児童発達支援や放課後等デイサービス、保育所等訪問支援など、障害福祉サービスに関する発表も多くなってきているように感じます。

小児分野で活躍する言語聴覚士もたくさん増えている一方、職場環境やスタッフの人員などにより、日々の業務や支援、プログラムについて相談できる仲間や時間がとれないなど、一人で抱え悩まれている現場も増えているようです。(聞きます)そういう時こそ、学会での発表や、(もちろん発表だけでなく参加だけでも十分ですが)STが一同に集まる学会に参加することで、日ごろの悩みの解決や糸口、ヒントなどに出会える場でもあると思います。来年の九州学会は沖縄です。学会とジャングリアを楽しみましょう♪

そして、5月17日(日)は、総会後に「第16回鹿児島県言語聴覚士会学術講習会」を小児担当で開催する予定です。

講師には、一般社団法人日本言語聴覚士協会会長の内山量史先生をお招きし、『「制度」を知れば未来が変わる～鹿児島からSTの新しい一歩に～(仮)』をテーマにご講演していただく予定です。ST協会会長の講演を鹿児島で聞く機会は今中々ありませんので、1人でも多くの会員にご参加いただき、皆さんでSTの明るい未来を考える時間になればと思っています。多くの参加お待ちしております!!

小児学術局担当

ことばの相談室みかんの樹 松永宏行



学術局 (生涯学習)

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加・ご協力頂き、誠にありがとうございます。
鹿児島県 言語聴覚士臨床実習指導者講習会を2025年12月6日・7日で実施致しました。
イメージしやすいように下記にスケジュールを記載しています。

1日目

8:30~9:00 出席確認、オリエンテーション
9:00~10:30 講義1 臨床実習指導者講習会の開催の背景ならびに目的 講師:戌亥啓一
10:30~10:40 休憩
10:40~11:40 講義2 教育原論・人間関係論
11:40~13:10 演習1 人間関係論
13:10~14:00 休憩
14:00~15:00 講義3 ハラスメント防止意識の向上
15:00~16:30 演習2 ハラスメントの防止について
16:30~16:40 休憩
16:40~17:40 講義4 臨床実習の到達目標と修了基準
17:40~19:10 演習3 臨床実習の到達目標と修了基準

2日目

8:30~8:50 出席確認、オリエンテーション
8:50~9:50 講義5 臨床実習における学生評価
9:50~11:20 演習4 臨床実習における学生評価
11:20~11:30 休憩
11:30~12:30 講義6 臨床実習施設における臨床実習プログラムの立案
12:30~13:20 休憩
13:20~15:20 演習5 ガイドラインに規定する時間内での臨床実習プログラムの立案
15:20~15:30 休憩
15:30~17:00 演習6 臨床実習指導者およびプログラムの評価

以上のようなスケジュールで今後も大きく変更はない予定です。今回私は1日目に世話人、2日目に講師と世話人として参加致しました。初開催から3か月後の2回目の開催でしたが、「何回聴いても為になり、振り返りとなる。」「時間が長い(笑)」そして、「皆様の意見がとても参考になり、グループで飲みに行きたくなる。」が率直な感想です。臨床実習指導だけでなく、後輩育成等の教育方法やハラスメント等を知ることができ、様々な評価方法、さらにはグループワークでの役割やまとめ方についても学ぶことができています。言語聴覚士の未来の為にも5年目以上の方は是非、次年度予定の講習会参加をお願い致します。今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

また、2026年3月8日(日)に基礎講座5「職能団体の役割と言語聴覚士の責務」と基礎講座6「エビデンスに基づく臨床(EBP)と研究法の基礎」を講師に有川 瑛人氏(加治木温泉病院)をお招きし、ハイブリッド(現地/WEB)開催致しました。次月号で結果等の報告をさせて頂けたらと思います。

いちき串木野市医師会立脳神経外科センター 地域医療連携室 尾崎 幸平

TEL:0993-32-9999 FAX:0996-32-0496

学術局 (新人教育)

今年度は新人教育研修会を2回開催いたしました。

第26回新人教育研修会では、米盛病院の熊倉真理先生を講師にお迎えし、「基礎から学ぶ脳画像～STのための臨床推論と効率的評価」と題してご講義いただきました。日々の臨床の中で、「この症状はなぜ起きているのだろう」と考えながらも、脳画像と結びつけて捉える難しさを感じている方も多いのではないのでしょうか。日常の疑問に寄り添うように、脳画像から症状を読み解き、評価へとつなげる思考の流れを、症例を通して丁寧に示していただきました。参加者からは、「画像から症状を予測する視点が臨床とつながった」「検査の優先順位を考える際の軸が見えてきた」といった声が聞かれました。印象的だったのは、脳画像の理解対象者の負担を減らすための臨床判断につながるというお話です。“知っている”から“使える”へと変わる瞬間を感じた時間となりました。

続く第27回新人教育研修会では、加治木温泉病院の原有希先生を講師にお迎えし、「小児領域における言語聴覚士の役割—園・学校・他機関への働きかけを通して—」と題してご講義いただきました。講義の冒頭は、「言語とは何か」についてお話しいただきました。日々使っているものなのに本質について考える機会は意外と少なく、とても難しく感じました。また、言語学や音声学といった基礎に立ち返り、学生時代に学んだ知識が、対象児やご家族、他職種へとつながる大切な土台であることを改めて実感しました。臨床場面の紹介では、ご家族への説明や、関係機関との連携について、具体的な実践を交えてご紹介いただきました。参加者からは、「子どもが“伝わった”と感じる経験を大切にしたい」「保護者の理解に合わせて支援を伝えることの大切さを改めて感じた」といった声が寄せられました。対象児の小さな変化に気づき、一步を喜ぶ大切さがあたたかく伝わる講義でした。

今回の二つの研修会は、対象や領域こそ異なりますが、「目の前の人を理解しようとする姿勢」という点で深くつながっていたように感じます。画像から症状を読み解くことも、対象児やご家族の思いに耳を傾けることも、その根底には“理解しようとする姿勢”があるのではないのでしょうか。

近年、医療福祉の現場では連携の重要性が高まり、AIなど新しい技術の進展によって支援の形も変化しています。しかし、時代が進んでも、人の思いや背景に寄り添い、ことばを通してつながりを生み出していく言語聴覚士の基本的な役割は続いていくと思います。これからも学びの場を大切にしながら、会員同士が支え合いともに成長していきける場を築いていきたいと考えています。また、今回の研修会で生まれた気づきや学びが、それぞれの現場で新たな一步につながり、繋がりが、広がっていくことを願っています。今後とも多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

学術局 新人教育担当 木佐貴太陽

地域局 (大隅地区担当)

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加・ご協力いただきありがとうございます。
大隅地区担当の瀬崎です。

2022年に地域局の理事に就任し4年が経過しました。思い返せば、就任時はコロナ渦真っ只中であり、全てがオンライン上で行われていました。引き継ぎも会議も研修会もパソコンの画面越ししかメール、資料もデータでのやり取りでした。画面越しのコミュニケーションでは表情や雰囲気といった非言語的な情報が伝わりにくく、意思疎通の難しさを感じる場面も少なくありません。人と人との直接的な関わりの大切さを改めて認識しました。

一方で、感染対策として始まったオンライン活用ですが、時間や距離、費用などのコストを小さくし、地方にいながら学会や研修会に参加しやすくなり、現在は現地とオンラインで参加が選択できるものが増え、知識や情報へのアクセスが広がったことにはとても感謝しています。

こうした社会のデジタル化の流れの中で、県士会でも2022年10月からLINE配信がスタートしました。現在460名ほどご登録いただいています。会員の皆様により良い情報発信ができるよう、今後も取り組んでまいります。まだ登録されていない方は、登録くださいますようお願いいたします。その際は、会員確認のため①氏名、②所属先(勤務地)、③所属地区を入力し返信ください。返信がない場合は、ブロックされてしまう可能性がありますので、早めの対応をお願いいたします。

さて、令和8年度がスタートします。みなさんは目標を立てましたか？私はフルマラソンに挑戦します。『走る』のは高校生の頃の持久走大会…どこを何キロ走ったのか思い出せないくらい前…ぶりです。怪我なく時間内に完走できるように練習を頑張ろうと思います。

地域局としては、症例研修発表会や交流会を通して、地域の会員の皆さんと意見交換ができるよう計画しています。ぜひ、症例発表に挑戦してみませんか？発表の上手さよりも経験を共有し学びを深めることが大切です。みなさんの一歩が、臨床力の向上と会員の学びに繋がります。

診療報酬改定もあり、新年度を迎える準備でバタバタする時期です。また新たな環境で生活がスタートする方もいらっしゃるかと思います。体調を崩さないよう、元気よく新しい新年度を迎えましょう！



LINE 公式
アカウント
はじめました♪

- ☑ 重要な情報をタイムリーに。
- ☑ 研修会申し込みが簡単に。
- ☑ 変更届もスムーズに。
- ☑ 県士会が身近な存在に。

👉 QRコードを読んで、すぐにお友達追加♪
@313psfby ID検索してもok♪

鹿児島言語聴覚
Association of Speech-Language-Hear

社会局 (地域リハ・広域担当)

私事ではありますが、R8年3月9日から11日に鹿児島県南部にある十島村の口之島へオーラルフレイルに関する助言の依頼が県士会にあり、十島村役場の保健師と一緒に派遣へ行かせて頂きました。口之島は鹿児島からフェリーで6時間ほどの場所にあり、人口100名前後で75歳以上の高齢者割合が50%を超える所でした。

派遣内容は健康チェックリストにて「お茶でむせることがある」「半年より前から固いものが食べにくい」とチェックされた方を自宅訪問や公民館に集まって頂き、口腔機能に対する助言や口腔体操等の指導を行いました。固いものが食べにくいという背景には、義歯の不適合による噛みにくさの訴えが多く見受けられました。島には歯医者がなく半年に1回の巡回相談か鹿児島県本土までかけて治療する必要があり、億劫になってしまうというのが現状でした。そのため、刻んだ食事や柔らかい物中心になってしまい咀嚼力の低下に繋がる恐れがあります。県本土と比較し医療資源や物資が不足するため、その中で出来る事を考えていく必要があります。

島では限りある資源の中で、地域住民の方々が協力しサロンの開催や高齢者の健康チェックをされておりました。また、お互いに体調を気遣いながら生活をされており、互助の力を感じました。また、島全体は坂道が多く、坂道を元気に歩く姿や畑に出向く姿等、体の健康を少しでも維持しようとする姿勢がみられ、そこに自助の力を感じました。

上記で記した「自助・互助」とは地域包括ケアシステムにおける「自助（セルフケア）・共助（介護保険に代表される社会保険制度及びサービス）・互助（ボランティアや住民組織の活動）・公助（生活保護、人権擁護・虐待対策）」の4つの助の内の2つとされております。県本土では、介護保険等の社会保険制度が徐々に充実しつつあるものの離島においては不足している状況です。しかし、島民の方々をみると「自助・共助」の力で介護予防へ取り組む姿に感銘を受けました。

今回、支援という形で派遣させて頂きましたが、大変たくさんの学びを得ることができました。この経験を私の所属している地域をはじめとして他の地域、県士会員の皆様にも伝達できるように努力したいと思います。

社会局 地域リハ・広域担当
整形外科松元病院 向井 優善



社会局 (地域リハ・鹿児島市担当)

卒業や入学など様々な人の動きのあるこの季節。皆様いかがお過ごしでしょうか？新人STを迎える職場もたくさんあることと思います。私自身、「フレッシュな力に負けないよう、まだまだ頑張らないと！！」と思う今日この頃です（^^；）

さて、R7年度下期は介護予防地域リハビリテーション関連の研修（鹿児島県PTOTST連絡協議会主催）が3件実施されました。

お達者クラブや地域ケア会議に関連した介護予防・地域ケア会議推進リーダー研修と、このリーダー研修を受講した後のレベルアップを目的としたステップアップ研修です。いずれも、数名のSTがご参加くださいました。3月21日に実施されたステップアップ研修は、ケアマネージャーさんや保健師さんから、「わたしたちセラピストに介護予防事業において望むこと」をテーマにお話しいただきました。

介護予防事業では「専門職」に対する期待感から、ついつい専門職の視点にこだわりすぎてしまいがちな印象も受けますが、他の職種の方の視点をいただくことで学ぶことも多くあった内容でした。こういう機会をより多くのSTと共有したいと感じたことでした。

鹿児島市ではお達者クラブのST参画が2017年から、地域ケア会議の開始が2018年から。いずれもそろそろ10年目を迎えようとしています。その他の地域でも大方同じくらいの経過をたどっていると思います。

病院に勤務している会員の皆さんの中には、地域リハビリテーション領域に踏み込むことに対する不安を抱いている方もいらっしゃるかもしれません。私もそうでしたが、実際携わってみると退院後の実際の生活を想像する視点も広がり、入院中の患者さんの支援を考える知識が広がりました。介護保険領域のことを学ぶ機会にもつながります。いきなり一人で従事するわけではなく、経験豊富な従事者の見学やアドバイスをもらいながら活動できます。

きたる2040年問題を乗り越えるべく、介護予防地域リハビリテーション領域で私たちSTに期待される、そして、果たすことのできる役割はとても大きいです。

これからも、地域で活躍できる仲間をどんどん増やしていきたいと思います！！

新しいチャレンジにもピッタリのこの季節に、地域リハビリテーション領域に一步踏み出してみませんか？

興味のある方は、ぜひぜひ下記へお問い合わせ、また、石原までお気軽にお声かけください。



社会局地域リハビリテーション鹿児島市担当
社会医療法人緑泉会 米盛病院 石原禎人
お問い合わせ：yishihara@yonemorihp.jp

社会局（公共事業・保険担当）

3月に鹿児島県介護実習・普及センター運営協議会に参加してまいりました。現在、医療・介護業界では介護人材の不足が社会的課題となっており、鹿児島県においても2040年には約8,100人が不足すると推計されています。

その解決策の一つとして、「鹿児島県介護生産性向上総合相談センター（かごロボ）」が設置され、介護サービスの質の向上と人材の定着を目的としたワンストップ型の相談窓口が運用されています。Instagramも開設されていますので、ぜひご確認ください。

鹿児島県言語聴覚士会は、社会福祉法人鹿児島県社会福祉協議会 介護実習・普及センター（カクイックス交流センター内）の関連団体として、介護知識・技術の普及に関する講師派遣を行っております。

令和7年度は、摂食嚥下領域に関する講義の講師依頼を4件いただきました。令和8年度は、2件の講師派遣を予定しております。

また、2026年6月施行の診療報酬改定の内容が示されました。今回の改定では、リハビリテーションにおいて「在宅・地域重視」「アウトカム評価」「多職種連携」が一層強化されています。

高齢化が進み、広域分散型の地域特性をもつ鹿児島県では、退院後も含めた継続的な支援体制の構築が重要です。言語聴覚士には、嚥下・コミュニケーション支援を通じて生活を支える視点が、これまで以上に求められます。

また、実施量ではなく機能改善や生活の質といった成果が評価される中、根拠に基づく実践と多職種連携の強化が不可欠です。地域包括ケアの担い手としての役割が、今後さらに期待されます。

社会局（公共事業・保険）では、会員の皆様からいただいた診療報酬・介護報酬に関するご相談を主に承っております。施設基準等に関する内容も含め、複雑な場合には日本言語聴覚士協会へお問い合わせいただくこともありますが、県士会全体で課題を共有するためにも、まずはお気軽に県士会へお問い合わせいただければ幸いです。

鹿児島県言語聴覚士会お問合せフォーム: <http://st-ba.net/contact/>

医療法人 玉昌会 加治木温泉病院

総合リハビリテーションセンター 末吉 孝行

TEL:0995-62-0001

FAX:0995-62-3778



社会局（広報担当）

令和7年度も、イオン鹿児島にて「言語聴覚の日イベント」を9月に開催させて頂きました。ご協力いただきました会員の皆様、誠にありがとうございました。今後も社会局広報では様々な企画を提案できるよう努めてまいります。今後も会員の皆様のご協力がますます必要となると考えておりますので、ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

また、広報では年2回広報誌を作成しております。広報誌の編集や言語聴覚士を皆さんに知っていただくイベントの企画などを一緒に考えてくださる会員の方を随時募集しております。興味のある方はぜひ県士会お問い合わせフォーム（<http://st-ba.net/contact/>）よりご連絡ください。お待ちしております。今後もHPや広報誌を通じて、会員の皆様へ情報を提供します。ぜひ、県士会HPをご覧になっていただければ幸いです。

公益財団法人 東風会 三船病院
大島亮平

TEL : 099-247-3016 FAX : 099-247-3068



財務局

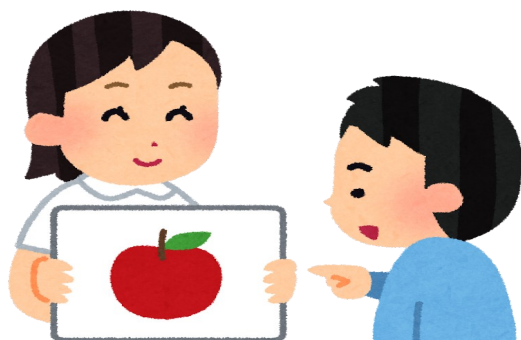
会員各位

平素より県士会活動にご協力賜りありがとうございます。
財務局担当 無所属 鎮守です。
会費のこと等ご不明な点、不備等ございましたら

財務局メールアドレス kago_st@yahoo.co.jp

上記までご連絡ください。対応させていただきます。
よろしくお願い申し上げます。

担当 鎮守美和



☆編集男誌☆

会員各位

平素よりお世話になっております。いつもニュースペーパーをご覧くださいありがとうございます。
最近徐々に暖かくなって参りましたが、まだまだ朝晩の寒暖差がございますね。年々身体に堪えるようになって参りました。体調を崩しやすい時期なため、体調管理に今一度気を引き締めたい所存です。皆様もご無理はなされず、ご自愛くださいませ。

実は今回、私も九州学術集会に参加させていただいておりました。現地へ赴き、先生方から多くの事を学ばせていただき、再会を果たした先生と熱く語り、チキン南蛮を食べ、冷や汁を食べ、辛麺を食べ、地鶏を食べ、ビールを飲み、焼酎を飲み、非常に充実し有意義な二日間となりました。学会・現地開催への参加は学ぶだけではなく、場の空気を感じる事も醍醐味だと認識しております。

第15回 九州地区学術集会 は沖縄大会大会となっております。スケジュールが合えば参加したいと考えております。すごく楽しみです！！（ソーキそばに、チャンプルー、悩みます。笑）

編集担当 広報局 吉岡もとみ